

暁 星

第54号

8.2.26

発行
島根県立平田高等学校
暁星会
印刷
(有)西村印刷

挑戦者となれ

英知を養い

勇気と情熱を持って前に進もう



会長 山下 壮一

暁星会会員の皆様には、
日々ご健勝にてお過ごしのことと拝察
致します。

平素より当会及び平田高校に対し
して、格別のご支援とご協力を賜り衷
心より厚く御礼申し上げます。

今年度ご卒業され新しく暁星会にご
加入を頂きました皆様方に対し、在籍
会員一同、心からご入会を歓迎する
ともにお祝いを申しあげます。これか
らの人生航路は、自らを信じて何事
にも「勇気と情熱」を持って頂きたい
と思えます*夢は目標となり前に進めば
現実*となります。

そして、社会人と成られし時には
「一隅を照らす」思いをお持ち頂き

「共助」「共生」が出来る平田高校暁星
会会員としての歩みを期待致します。

平田高校は一九一六年に開校以来百
十年を迎え、卒業生は一万九千人を超
えるに至っています。今年十月には
創立百十周年記念式典並びに記念事業
を計画しています。事業の先駆けとし
て、昨年九月に「マイクロバス・二十
六人乗り」を贈呈し、対外試合を中心
に各方面に利用され利便を計っていま
す。

記念式典及び記念事業に対しまして
は暁星会会員様には大変にご迷惑を多々
お掛け致しますが引き続きご支援・ご
協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、本校に於きましては今年も

「文武両道の平田高校」として活躍を
致しました。

体育系部活動が十三部・文化系部活
動が七部とそれぞれに存在しています。
今年も体育部・文化部の活動は島根
県大会を乗り越えて、中国大会そして
全国大会にも多数が出場を致しました。

柔道部に於いては毎年の様に国際大
会に出場する極めて優秀な選手も輩出
されています。今年度最後の全国大会
で三月二十七日・二十八日に日本武道
館で開催の全国高等学校柔道選手権大
会に男子団体戦(六名)・個人戦二名・
女子個人戦に一名が出場を致します。

また今年初め初めて駅伝部・
陸上競技部の佐々木葉音さんが、日本
陸連より将来のオリンピック出場を見
据えた「U20オリンピック育成競技
者研修合宿選手」に招待されて、去る
十二月東京；一月東京；二月香港に参
加を致しました。佐々木さんは、今年
度の全国高校総体(インターハイ)に於
いては「準優勝」に輝き、三年間の在
学中に於いても各種の大会で上位入賞
を重ねられ、平田高校の名を全国に知
らしめて頂きました。大学入学後に置
いても更なるご活躍を祈念いたします。

また昨年十二月二十一日に京都・都
大路で行われた「全国高等学校駅伝競
走大会」では男女共に連続出場を果た
しました。此の度は男子チームが過去

最高の順位でタイムも記録更新を致し
ました。今後の競技活動の活躍が大い
に期待されます。

全体の部活動についてのご紹介は本
紙別欄にて紹介を致しています。
本校の各部活動の活躍を是非ご覧下さ
いませ。

「文武両道の平高」の為に、暁星会
としては後援会と連携して幅広く活動
支援を継続して行きたいと思っていま
す。

昨年の九月二十八日に「東京平高会」
に出席を致しました。大島会長様を始
め会員皆様にご期待を受けなが
ら楽しいひと時を過ごさせて頂きま
した。皆様の明るくお元気なご様子に
接し、大変嬉しく思いました。母校・
平田高校や懐かしい故郷への変わらぬ
愛情に対しても、嬉しさで感謝の気持
で一杯でした。お一人お一人のお姿が
今でも思い浮かんで来ます。会員皆様
の幾久しいご健勝と当会の益々のご発
展を心よりご祈念致します。

また近畿平田会に於かれましては、
毎年沢山のお方がご参加をなさり、盛
大に開催をされています。

近畿地方ご在住の平田高校卒業生を
始め、平田地域及び島根県ご出身の沢
山の皆様方に毎年「全国高等学校駅伝
競走大会」に於いて、温かい応援をお
寄せ頂き、昨年もコースの京都・都大

路各所にて大きな声援を掛けていただきました。選手達は元より、関係者一同「生涯の思い出」と感謝をしています。

「平田高校創立百十周年記念事業」の準備も新年度を迎えていよいよ本格的に活動を開始致します。

皆様方にはご迷惑を多々お掛け致しますが何かと宜しくお願い致します。

式典の折には暁星会会員様を始め沢山



生徒会誌をめくりながら

会長 野津孝明

「暁星会会員の皆様には、平素より本校の教育活動に対しましてご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、まずはお礼申し上げます。

今年度も校長を務めさせていただいております野津孝明と申します。昨年度に引き続き、今年度も「3つの『たい』」をかなえたい」を私的スローガンとして、学校経営に取り組んでまいりました。これは本校のすべての教育活動が「地域の中学生在が進学したい」「保護者の皆様が通わせたい」「地域の方々が応援したい」と思える学校づくりへと向かうことを目指すものです。各中学

の皆様方にご来校を頂き、平田高校の様手に触れて頂ければ幸いと存じます。結びに寄せ皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶と致します。

結びあう

心に響く

校歌かな

感謝

校で開催された「高校説明会」も可能な限り出かけ、「一人一人を大切にする支援体制」を軸に本校のPRに努めました。また、総合的な探究の時間には地域の皆様と昨年以上に関わっていただきました。そのおかげか「最近、新聞やケーブルテレビに平高よく出るね」、「学校説明会の話を聞いて、子どもが平高に行きたいと言いました」とのお言葉も頂戴しました。今後も生徒を主役に据え、「3つの『たい』」をかなえる努力を続けて参ります。さて、校長室には1966年(創刊号)からの生徒会誌「きたやま」が保管されており、時折手に取っています。

暁星会会員の皆様もその時代に原稿執筆等の思い出があると思います。今やデジタル全盛となり、日々の発信や記録はSNSで手軽に行えるようになりました。近年では印刷は取りやめ生徒会誌そのものをDVD化して配布する学校もあるとか。ただし、これらのツールや発信方法は情報を受け取る側が「見たい」と思い、機器操作をしなるとそこにはたどり着かず、情報に触れてもらえない可能性は高くなります。その点においてアナログ製本されて残されていると何か思い出した際に、あるいはたまたま目に留まった際でもふとページをめくることが出来ます。

(感謝)

読んでみると、生徒会誌には「資料性」としての価値があると思うようになりました。めくってみると当時の学校のあり方や生徒の思いを知ることができ、大切な記録であると感じました。特集のテーマを追いかけただけでも「校則」「教師⇄生徒 今何を望んでいるか」「無気力を考える」「恋愛事情」「青春とは何だ」「世界へはばたけ平高生」などは当時の世相が見え、テーマによつては一定の間隔で繰り返されているものもありました。また、創刊号の特集コーナーは『成績は人の価値を決定するのか』であり、高学歴化が進む時代の中での生徒の様々な思いが伝

わってきます。「学校の成績が悪い人に価値はないのか」「成績と社会の実力とは異なる」等々、当時の生徒の白熱した議論の様子が垣間見えます。

さらに随想のコーナーには『井戸端会議』というタイトルで大人に対して「すぐに人のことをあれこれとせんさくする」「他の家へどんな人が来ようが、どんな服装をしていようが、かつてではないだろうか」「人のせんさくをするより前に、自分の家をふりかえってからにして欲しい」「原文ママ」と感じていることをもの申す姿勢も感じられます。温故知新とも言われますが、過去から未来を作り上げていくヒントをもらうためにも、当時の生徒たちや学校の営みを理解することは重要であると改めて感じました。今年度の生徒会誌「きたやま第61号」の完成も楽しく待ちたいと思います。

結びに暁星会会員の皆様にはこのたび新会員となる卒業生にご指導ご鞭撻を賜り、学校を離れた後も母校を見守るよき応援団となるべくご教示いただければ幸甚でございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



部活動

上位大会
出場者から

柔道部

「インターハイに出場して」

柔道部 2年 勝部 壮真

僕は8月13日から15日に岡山県ジツプアリーナで行われたインターハイに出場しました。高校に入ってから初めての全国大会でも楽しみな気持ちと緊張した気持ちがありました。結果は初戦敗退でした。日本一という目標を達成するためにやってきたのでとても悔しかったです。出場してみれば



全国で入賞する人たちの大きな力の差を感じました。平田高校で日本一を目指すためには今まで以上に目と努力が必要があると思いました。柔道で強くなるためには柔道だけでなく勉強、生活面全てにおいて一生懸命に頑張る必要があると思います。また全国大会の試合やアップ会場で強い選手などから技術的なことなどを見て学ぶところがたくさんありました。インターハイを終えてたくさん学んで成長することができたと思います。ですが、まだまだ日本一には届かないと思います。3月には全国高等学校柔道選手権大会が日本武道館で開催され男子団体戦、個人戦無差別級に出場します。また、8月には和歌山県でインターハイがあり、これらの大会で個人も団体も日本

一になれるように自分自身もチーム全体でも努力していきます。



駅伝部

「島根県高校最高記録を目指して」

主将 行武直弘

12月21日の全国高校駅伝で、平田高校男子は2時間7分3秒で34位という結果でした。タイム、順位ともに平田高校男子の学校記録を更新する結果となり、特にタイムでは、島根県高校最高記録の2時間6分39秒に迫る記録でした。

昨年のチームが学校最高順位の35位、2時間9分25秒の学校最高タイムを出されるのを見て、今年度はさらに高い目標を掲げて練習をしてきました。この1年間は決して平坦ではない1年間でした。県総体、中国総体では悔しい結果になった選手が多く、インターハイに出場した選手も1人だけでした。しかし、その悔しい思いがあったからこそ、合宿後に行われた記録会では多くの選手が自己ベストを更新しました。徐々にチーム内で「駅伝で戦える」と

いう雰囲気も高まっていたと思います。全国高校駅伝前に京都に入ってから良い調整ができており、大会に集中して準備をすることができました。ところが、チーム内でインフルエンザが広まり、不安も出てきました。とても緊張感の高い中でしたが、なんとか本番を迎えられました。今年の全国高校駅伝は雨が降ったものの、走りやすい少し暖めの気温の中でのレースで、例年以上のレベルの高い選手たちが出場する1区から非常にハイペースとなり、序盤タイムとしては想定通りの走りが出ていたものの順位としては遅れる展開となりました。ただ、4区以降の選手も順位を42位から34位に押し上げ、学校最高記録を更新するという結果を得ることができました。3年生4人全員が出走し、実力を出し切る走りをすることができました。最後にチームが最高の結果が得られ、とても達成感がありました。大会中も保護者の方、近畿平田会の方、そしてOB、OGの皆さんに応援をいただきました。本当に皆さんの方から応援され、支えられて自分たちは走ることができているのだと実感しました。少しでもその応援に返ることができていたら嬉しいです。来年の新しいチームには、島根県高校記録更新、そしてさらにその上の目標を目指し、達成して欲しいと思います。

「チームの雰囲気」

主将 門脇 葵

女子は、島根県記録である1時間11分43秒の更新を目標に、1年間練習に取り組んできました。結果は1時間17分51秒、56位と目標には及びませんでした。この1年間は、走力だけでなく、チームとしての在り方の面でも大きく成長できた1年だったと感じています。

春頃のチーム状況は、決して良いものではありませんでした。大会に出場しても自己ベストを更新する選手は少なく、主力選手に頼る場面が多く見られました。また、上を目指そうと積極的に挑戦する雰囲気もなく、チームとして停滞しているように感じる時もありました。夏の三瓶合宿をきっかけに、下級生が主力選手に追いつこうと積極的な走りを見せ、周囲の選手に刺激を与えてくれました。

全国高校駅伝まで残り約1週間となった頃、選手の半分が故障し、チーム状況は最悪なものとなりました。改めてミーティングを行い、本音をぶつけ合ったうえで全国へ挑みました。

現地での初日の練習を通して、チームの気持ち一つになったことを感じました。しかし、その後体調不良者が出るなど不安な状況が続き、不安を抱



える選手が多かったと思います。結果的に全選手が試走した区間とは異なる区間を走ることになりました。それでも誰一人ネガティブな発言をすることなく、出場できなくなった選手の間でも頑張ろうという思いで襷をつなぎました。想像していた駅伝とは違う形にはなりましたが、選手だけでなく付き添いも含め全員が全力を尽くしたからこそ、無事にゴールすることができま

した。

今回の駅伝に限らず、コーチや先生方、そして家族の支えがあったからこそ、最後まで乗り越えることができました。また、沿道からのたくさんの方の応援のおかげで最後まで諦めない走りことができました。今回をもって3年生のほとんどが引退となります。全員が選手として走るという目標は達成できずでしたが、それぞれが自分の想いを胸に、駅伝に向き合うことができたと思います。これからはより一層コミュニケーションを大切に、さらに良いチームを目指してほしいと思います。そして島根県記録更新をしてほしいです。

「3年間の集大成」

主将 佐々木 葉音

7月25日から29日に広島県で行われたインターハイに800mで出場しました。直前まで練習がしっかり積んでいたの自信があった反面、去年の3位という結果よりも上を狙っていかないとけないというプレッシャーがあり、とても緊張していました。また3年間の集大成と高校最後のインターハイということもあり、期待に応えたいという一心で望みました。その中でも私は島根県記録更新を目標にレースに挑みました。今大会は中国地区開催だったこ

ともあり現地にチームメイトが応援にきてくれてそれが自分自身の励みとなり、最高の状態でスタートラインに立つことが出来ました。レース中でも冷静さを保ち、最後の1歩までこだわり2位でゴールしました。目標の島根県記録にはあと一歩届かずという結果で終わりましたが、今の最大限の力は発揮出来たことや大幅に自己ベストを更新し、後悔はないです。ですが今回見つけた課題を修正し高校最後の800mで磨き上げていきます。ここまで来れたのは紛れもなく自分1人の力じゃなく、たくさん人の支えがあつてこそその結果なのでこれからの大会でも走りで見返しが出来る強い選手になっていきたいと思えます。応援ありがとうございます。



写真部

全国高等学校総合文化祭 (写真部門)に出場して

平田高校から、安食真緒さんと加川愛唯さんの2名が、香川県高松市で開催された「全国高等学校総合文化祭」に島根県代表として出場しました

安食真緒

総文祭では、審査員の藤村さん(写真家)の講演会を聞いたり、全国の代表作品を見たりすることで、自分の写真に対する意識が広がったと感じました。また、自分の作品が上位入賞に当たる「奨励賞」に入ったことはとてもうれしく、全国大会で表彰されたことや、自分の作品の講評を聞くことなど全てが初めての経験で、とても学びの多い大会になりました。たくさん

加川愛唯

全国から出場した生徒の皆さんと交流できたことが今回の大会でとても印象に残っていることです。交流を通して、自分とは違う視点で写真を見てい



JRC部

「青少年赤十字 国際交流集會に参加して」

2年 金築侑千

私は昨年秋に東京都のオリンピック記念青少年総合センターにて青少年赤十字国際交流集會に島根県代表メンバーとして参加しました。今回の交流集會では三十六名の海外メンバー、三十七名の日本メンバーの計七十三名が参加しました。開催目的は「参加者との相互理解を

深め、国際理解・親善を実現する」「交流を通して、アジア・太平洋地域等における青少年赤十字・赤新月の活動を学ぶ」「サブテーマ『気候変動』と『人道危機』について議論を交わし新たな視点を得る」「自分たちの今後の青少年赤十字活動に向けてヒントを見つける」という四つの項目です。五日間のプログラムは次のとおりです。

○青少年赤十字活動紹介
○フィールドワーク
○三井「サス学」アカデミーを通じ各社の事業活動を参考に自分たちで考えることを考える。
○インプットタイム(講義)
「気候変動」と「人道危機」の両方のサブテーマに関する講義を受ける。
○グループディスカッション・発表

○文化交流とフェアウェルパーティー
国際交流集會では多くの価値観や意見に触れ、新たな発見にもつながる五日間でした。また、世界には私達と同じようにこの地球規模の問題を解決したいと考えている仲間がこんなにも多くいるということとは私の活力になると思える経験になりました。また様々なルーツを持つ方々とお互い

進路の状況

進路概況(実数)

Table with columns for graduation year (R4, R5, R6) and rows for various school types (National, Private, etc.) and employment status.



の価値観を伝え合う難しさや大変さを知ることができました。この貴重な体験を今後どのように活かしていくのか自分なりに考え、多くの仲間と協力して、実行していきたいと思えます。最後になりましたが、この青少年赤十字国際交流集會に関わられたすべての方々に感謝と敬意を申し上げます。

令和7年度 部活動の成績

【体育系部活動】

●野球部

島根県高等学校春季野球大会
1次予選敗退
全国高等学校野球選手権島根大会
2回戦敗退
島根県高等学校秋季野球大会 ベスト16

島根県総合体育大会

●女子バレーボール部

2回戦敗退

●駅伝部・陸上部

男子総合 2位 (トラック2位)
女子総合 2位 (トラック2位
フィールド4位)

1500m 2位 井戸琥太郎

5位 行武直弘

5000m 1位 古藤太一

2位 幸野亮太

3位 今岡悟志

400mH 6位 曾田流亜

3000mSC 1位 遠藤光基

5位 小村亮太

三段跳 3位 荒木裕翔

400m 2位 佐々木葉音

800m 1位 佐々木葉音

4位 大浜歩花

1500m 5位 福田美紅

6位 大浜歩花

3000m 2位 福田美紅

4位 金森由奈

5位 門脇葵

5000mW 5位 杉山あき

4×400mR 3位 高見、大浜、
加藤、佐々木

砲丸投 4位 伊藤綺華

円盤投 4位 多久和心

やり投 3位 高見真白

七種競技 1位 伊藤綺華

●柔道部

男子団体戦 3位

女子団体戦 3位

60kg級 2位 久保丈也

81kg級 3位 大谷新太

90kg級 2位 和田英大

100kg超級 1位 勝部壮真

52kg級 2位 西藤心彩

3位 井戸七海

63kg級 2位 池田璃音

70kg級 3位 高木紅葉

●剣道部

男子団体 3位

女子団体 1回戦敗退

●卓球部

男子団体 3回戦敗退

女子団体 ベスト8

●男子テニス部

団体 2回戦敗退

●女子ソフトテニス部

初戦敗退

●男子バスケットボール部

2回戦敗退

●女子バスケットボール部

初戦敗退

●サッカー部

2回戦敗退

中国大会

●駅伝部・陸上部

3000mSC 5位 遠藤光基

800m 1位 佐々木葉音

●柔道部

60kg級 3位 久保丈也

100kg超級 3位 勝部壮真

全国大会

●駅伝部・陸上部

全国高等学校駅伝競走大会

男子 2時間7分3秒
34位/58チーム

女子 1時間17分51秒
56位/57チーム

全国高校総体陸上競技大会

800m 2位 佐々木葉音
2分4秒74

(日本高校歴代9位!)

3000mSC 17位 遠藤光基

国民スポーツ大会

少年女子A800m 2位 佐々木葉音

●柔道部

全国高校総体柔道競技大会

100kg超級 初戦敗退 勝部壮真

【文化系部活動】

●吹奏楽部

第66回全日本吹奏楽コンクール島根県大会
高等学校Aの部 銀賞

●美術部

第26回高校生国際美術展美術の部
秀作賞 平井美桜

●写真部

第49回全国高等学校総合文化祭 香川大会
奨励賞 安食真緒

第49回全国高等学校総合文化祭 香川大会
出場 香川愛唯

第32回全国高等学校写真選手権大会 写
真甲子園2025 中国ブロック審査進出

第53回島根県高等学校写真展

金賞4点、銀賞9点、入選13点

●JRC部

島根県高文連 J R C 秋季協議会研究発表
優秀賞 (第2位)

スポG O M I 甲子園2025島根県大会
第5位

青少年赤十字インターナショナルミーティング
県代表 金築侑千

青少年赤十字全国スタディセンター
県代表 小村真央

JICA中国・高校生国際体験プログラム
県代表 田中りのあ

●放送部

第61回 島根県高校放送コンテスト兼

第72回 NHK杯全国高校放送コンテスト
島根県予選

アナウンス部門決勝

第10位 酒田彩音

第29回島根県高等学校総合文化祭放送
部門島根県大会

アナウンス部門決勝

第4位 酒田彩音

アナウンス部門決勝

第9位 森山優心

